「新しい東北」官民連携推進協議会
令和５年度　岩手県意見交換会（第２回）議事概要（公開用）

令和５年８月 21 日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日　時】令和５年８月 21 日（月）13:00～15:00
【場　所】復興庁岩手復興局／オンライン（Teams）
【出席者】（敬称略）
＜副代表団体＞（所属の五十音順）
株式会社岩手銀行／岩手県／国立大学法人岩手大学／特定非営利活動法人いわて連携復興センター
＜復興庁＞
復興庁　復興知見班／復興庁　岩手復興局
＜事務局＞
株式会社 JTB 総合研究所／株式会社 JTB

【議事概要】
1　開会
復興庁より新規着任の挨拶をするとともに、今年度の取組の企画に当たって、委員の皆様から忌憚のない意見をいただきたい旨、挨拶した。

2　各団体の活動紹介
復興庁、国立大学法人岩手大学より、取組紹介資料（資料 2-1～資料３）を基に取組を紹介した。

3　令和５年度の実践の場実施に向けた検討
（１）本年度の企画案に関する意見交換
事務局が提示した企画案について、参加団体より概ねの同意が得られた。
一方で、本年度は新型コロナウイルス感染症の落ち着きにより、学会やフィールドワークなどの活動が再開されているため、参加者の確保が難しい状況にあるとの意見が挙げられた。こうした状況を加味し、参加者の確保にかける時間を増やし、かつ若者・学生の負担を減らして参加しやすくするため、当初２回を予定していた事前ワークショップを１回に集約し、10 月 14 日（土）の 13 時から約２時間、場所は岩手県庁下の若者カフェで開催する方向に修正することとした。
また、参加者の募集について、県の HP や SNS を使って広く周知を図るほかに、各参加団体より個別のアプローチ先案が挙げられており、事務局から参加者募集用のチラシの共有後、各参加団体が積極的に広報を図る旨が確認された。
第１回ワークショップにおいて提示する立ち寄りスポットリストの作成にあたっては、事務局側で一度現在のリストを整理したものをお示しし、その上で追加すべき訪問先・事業所があれば改めて情報提供をしていただくこととした。
この他、来年度以降に本企画をどのように進めていくのかという点について、観光関連団体や県との連携に関する意見がかわされた。この点については、今年度の企画の実施状況も踏まえながら、次回の意見交換会において意見交換を進めていく予定である。

（主な意見）
・大体イメージ通りだった。こうした取組について、今後は三陸 DMO センターなどがやっていくことも考えられるのではないか。

・いただいた資料やコンテンツリストたたき台について、わかりやすく「三陸沿岸にこういうコンテンツがあるよ」と学生に示せるものになっていると思うので、とても良いと思った。実際にそれらを踏まえてワークショップで魅力を紹介しながら学生に考えていただくことで、実際に岩手の魅力に気付いてもらえるプログラムになればいいと思った。
・来年度以降の企画案の進め方については、今回は若者カフェの取組とも連携して行わせていただいているので、県の若者女性共同推進室に実践の場の意見交換に入っていただくほか、我々の企画としてやっているものを県の企画で使える余地はないかという話をさせていただくこともあるではないか。
・この場で調整されたツアーやプログラムは、最終的に、首都圏の学生たちと岩手県との交流人口を作るためのプログラムとして造成していくのか。交流人口の拡大がテーマでもあるので、内陸と沿岸との交流が深まって良い事例ができたものが広がっていけばいいと感じた。

・これまでの周知状況として、まだ変わり得る可能性はあると補足した上で、チラシと同じような内容を７月後半から皆様を通じて周知させていただいた。８月 11 日締めで先に関連の深いところにプレ募集をしていたが、今のところ出て来ていない状況である。オープンな形で岩手県の HP や SNS を使って周知させていただくのはこれからになるが、個別にもアプローチをして参加者を確保する必要があり、どういった工夫ができるのか、相談できればと思っている。例えば大学では、大学生協などに貼ってあると効果的なのではないか。
・事前のワークショップのスケジュールについて、９月辺りならちょうど夏休みなので動けるのかなと思ったが、コロナが５類になったことで学会が結構開かれることになり、先生方に研究室の学生さんが随行したり、研究室単位で今まで行けなかったフィールドワークに行くことが増えて、夏休みでも学生は結構忙しい状況が発生している。また、８月中旬、秋田の豪雨災害があったところに自主的にボランティアに行っている学生もいる。10 月は大学祭の準備に手を取られるような状況も想定される。せっかく良い企画にしてもらったので、できるだけ学生に参加、経験してほしいと思っている。
・昨今、学生さんも暇ではないので、忙しい中、どうやって引き込むかは十分考える必要があると思う。チラシや HP 以外にも、SNS 等も使った方がいいのではないか。
・先行募集については、興味のあるサークルのみにお知らせしたが、今回ポスター等のデータもいただければ、学生向けに情報提供をする場、メール等でいわゆる講義の変更や試験情報などを提供する、学生は必ず見てくださいというところに載せようかなと思っている。あとは、アナログではあるが目に付くようなところ、生協や学生センターなどに貼りつつ、一方で復興関係のサークルの中でも興味を示すようなネットワーク、学生グループはどこにいるのか話を聞いてみて、ポイントで当たってみようとは思っている。県立大や盛大にも学生経由でお願いしようと思っている。ポスターのみでは具体的に興味を示すようなところがなかなか読み取れないので、代表の子を呼んで説明して、そこから展開して報を伝えようかなと思っている。
・若者女性協働推進室には意見交換会後に PDF 等のデータをお渡しする。チラシなど配布できるようなものがあれば若者カフェに設置していただくことと、ＳＮＳでの発信をしていただくという流れになっている。県の繋がりとしてはそういう感じだ。
・（岩手大学以外の県内大学へのアプローチについて、）単純な周知文章を送ることはできるが、そうではなくて個別に依頼する必要があるのであれば、それぞれの担当課に相談したいと思う。
・岩手県の大学には、観光の先生や学部、コースがない。岩手大学では、人文社会科学部の地域経済に関わるような学生は地域をフィールドとしていろいろなコンテンツを扱ったりするほか県立大学の総合政策学部の学生もいるが、観光メインではない。
・専門学校では、盛岡外語観光&ブライダル専門学校さんに声掛けをすることが考えられる。事業に参

画することが今後の就職活動のいいヒントになるかもしれないというお伝えの仕方であれば、過去にも専門学校生が参加されたことがあるので、専門学校にも声掛けすることはいいと思う。10 月は大学祭月間なので、大学生は参加するのが難しいかもしれない。高校生、専門学校生、社会人の方に声掛けした方がいいかなという感覚だ。

・高校生では保護者の同意が必要になる可能性がある。今回の建て付け上、各地域での移動を参加者に委ねることになるため、同伴者や責任者がいない点は気になる。いったん高校生は考えたほうがよいのではないか。
・社会人は 20 代くらいまでは若者に入るであろう。
・盛岡市が昨年度のエクスカーションツアーに参加しており、復興推進アドバイザリーボードという委員会の中でこういう活動の重要性を伝えている。盛岡市の青少年系の部署などに声を掛けてもらえればと思っている。
・今住んでいないけれど、出身だ、という方、例えば仙台の大学に行っている方は対象として良いのではないか。
・岩手銀行と NTT で協創力育成プログラムというのをやっている。その対象は 25～35 歳程度で、それ自体は９月からスタートするのだが、プレイベント的なものを明日開催する。参加者の 20 代の社会人の方にチラシを配ってお声掛けしてみる。
・盛岡市の青年会議所の理事を知っているので、会員企業の若い職員の方に、ピンポイントにはなるがアプローチしてもらうようにはしたいと思う。
・社会人というと、県や銀行の内部の若手職員向けに周知いただくことも検討いただきたい。

・９月 16 日というスケジュールについて、もう少し後にずらしていただきたい。募集、声掛けに関しては事務局の方から「今現在、社会人何名、学生何名」という情報を折に触れていただけるといい。あとは締め切りをいただければ、それに沿ってもうちょっと頑張ってみようというふうにできる。そのように擦り合わせるのが現実的だと思う。
・ワークショップに２回とも参加しなければいけないとなるとハードルが上がるかなという感覚がある。時期を後ろにずらしてもそんなにゆとりがあるものではないと思うので、参加の要件を緩和するというのも一案かなと思う。
・２週間ずつ遅らせて第１回を９月 30 日とかにすることも一案か。県からも話があったように、第１回でエリアのところのチーム分けとツアー行程案のディスカッションがあれば第２回は任意参加でもいいのかなという気もする。
・学生の立場的に土曜日が３回潰れるのはハードルが高い可能性がある。２回分を集約して第１回ワークショップを 10 月 14 日に行い、そのときに第１回でやろうとしていた内容をやる。とりあえずチラシには第２回のワークショップという言い方では書かず、そのときの話し合いの中で一旦内容についてオンライン等で詰めていきましょうということで、11 月 25～26 日をツアーの実行日とするということで整理できれば、社会人も含めてハードルがちょっと下がるかなという気がする。
・10 月 14 日に１回目を行う際に気になるのは、学生に旅程を提示するのがツアー直前になる可能性があるのではという点。この点を配慮いただきたい。

・立ち寄り箇所については、浄土日和さんに整理していただいているものに、三陸 DMO センターさんと連復さんからいただいたリストも集約する。事業団体ごとに整理していくと、20～30 前後になると考えられる。これ以外に、追加した方がいい事業者や体験コンテンツがあれば、情報提供いただきたい。

（２）振り返りミーティング プログラム案に関する意見交換

事務局が示した振り返りミーティング案に関して、まずは参加した若者・学生の生の声を聞き、現地の観光関連事業者にフィードバックすることが第一の目的であるということが共有された。

後半に設定している専門家によるプレゼンテーション・ディスカッションについては、対象や目的についての整理が必要という指摘がなされたが、議論の結果、若者・学生の声と合わせて、外部の専門家の声を聴くことによって、現地の観光関連事業者に気づきを与える、という方向性で概ねの賛同を得た。

この他、プログラムの順番について、専門家によるプレゼンテーションは事前に若者・学生に向けて行った方が良いのではないかとの意見も挙げられた。こうした意見も含めて、振り返りミーティングの詳細な内容を事務局で更に検討していくこととした。

（主な意見）

・振り返りミーティングは何のためにするのかなと思った。参加者には言いづらいこともあるのかなと思うので、受け入れた事業者さんと事後にレビューした方がいいのではないか。
・受け入れ事業者に感想を聞くのは事後アンケートという形にするのか意見交換にするのか考えたいと思う。振り返りミーティングに若者を入れた方がいいと思っていることについて補足する。現地の観光関係の団体に今回の企画案を説明させていただくと「３つの地域でやるのはすごくいい企画だ」ということだった。各地でそれぞれの地域の振興をやっているけれども、他の地域が何をやっているか、どういう事業をやっているのかはあまり知る機会がないということだった。また学生側からのフィードバックも、大学なり高校なりで観光受け入れみたいなことをやっていると、どうしても受け入れ先のフィルターがかかったものしか来ないというところがあるので、若者たちから直接聞くのはメリットなのではないかという話をいただいている。
・３地域でそれぞれ体験していることが違うので、その共有をするというところまではスッと入ってくるが、その後の講師の方のプレゼンテーションやパネルディスカッションの設計を考える必要。受け入れる側に気づきをもたらす方向にするのか、学生目線で、いいアイデアもあればそれほどでもないものをひっくるめていろいろ出してもらうようなディスカッションにするのか。後半のプレゼンとディスカッションの狙いみたいなものをもう少し鮮明にした方がいい。「観光を介した関係人口づくり」という言葉だけでもイメージするものがあるので、それだけが話されて漠然とした形で収れんしてしまうのではもったいない気がする。時間設定はそれ以上取れないだろうから難しいのだが。
・事務局案の趣旨は、現地事業者や各地の観光協会、旅行会社さんをお呼びする以上は彼らにメリットのある形で還元する必要があると考えた。若者は参加して旅行すること自体が楽しみということでよいが、協力していただいた現地側にも返すところは必要なのかなと、どちらかというとそこに主軸を置いたプランニングをしている。講師や専門家のプレゼンテーションを入れているのは、現地側以外の外部の人の目を入れておくことも必要なのかなという発想。
・事業者さんにしてみると地域、地域では頑張っているが、隣が何をやっているのかがわかりづらくて一堂に会することはないのかもしれない。そういったところを外部の意見を踏まえつつ、その方々に整理してもらうというのは確かに有効なのかなと思う。
・学生の学びに視点を置こうとすると専門家によるプレゼンテーションをツアーの前にやって、観光を介した関係人口づくりや地域の魅力発信に効果的な手法は一般的にはこういうものがあるということを踏まえて学生が現地を見て、学んだことを念頭に置きながら、学生からフィードバック的に感想を発表してもらうのもいいのかなと思った。最後にまたディスカッションでおさらい的にやるのがいいのかなと思う。学生も、自分たちがどういう視点で関係人口づくりを考えるかというところで、講師のプレゼンを聞いた上で現地に入った方がいいかなと思った。
・最初に専門家の知識を入れるのがいいのか、それとも学生のフレッシュな感覚で見てもらった方が

いいのか、すごく悩ましい。学生にとっては見方を最初に聞いた方が効率よく見られるという思いもあるかもしれないが、「学生さんに新しいものの見方を教えてほしい」みたいなところもある。

・学生の意見を自由に出していただく中で、当事者の方に１つでも２つでもコツンと当たるようなものがあれば、それだけで成功なのかなという気もする。

・地元の産業の方や観光業者の方目線ということであれば専門の先生からお話しいただいて、（副代表団体は）ディスカッションの一員として意見をお話しするということがあり得るかなと思う。ターゲットが現地の事業者なのであれば。その中で、学生さんが本当に肌で感じたことを生の声で言ってもらうというのがいいのかなと思う。かっちりした予定調和で終わるよりも生の声が聞けた方がいいだろうというところと、事業者向けにはしっかりした他の意見、考えを整理してもらうという２つの視野で考えていくと、その間で受け取る側がどういうふうに受け取るのかが決まってくると思うので、それはそれで面白いのかなと思う。

４　閉会

第２回意見交換会での議論内容に基づき、参加者の募集を進め、ワークショップや当日プログラムの詳細な検討を進めることとした。第３回の意見交換会は１月の下旬を予定しており、今後事務的な調整を進めていく。